

いちごの隔離床育苗における栽植距離 培地の深さおよび施肥量

1. 試験のねらい

近年、夜冷育苗、高冷地育苗等の早出し作型が進み、全体の半分を占めるようになった。こうした中、花成促進のための低コスト・省力育苗技術の確立が望まれている。そこで省力可能である隔離床育苗における生産安定を確立するため、栽植距離、培地の深さおよび施肥量について検討した。

2. 試験方法

品種は女峰を用い、隔離床における処理は栽植距離を15×15、18×18cm、培地の深さを10、15cm、N施肥量を50、100、150 mg/株として、それぞれを組み合わせた12処理とした。なお、肥料はコーティング肥料（N-P-O-K O 14-12-14%）を使用し、N以外の成分の調整は行わなかった。

採苗は7月4日に行い、直ちに隔離床へ仮植を行った。定植は9月8日に畝幅1.1m、株間21cmの2条高畝で行い、本ぼの施肥量はN 1.8、P₂O₅ 2.7、K₂O 1.8 kg/aとした。

3. 試験結果

- 1) 定植時の生育は、栽植距離間では15×15cm区、培地の深さ間では10cm区がそれぞれ旺盛となり、また施肥量間では多い区ほど株が大きくなる傾向であった。特に栽植距離15×15cm・培地の深さ10cm・施肥量100・150 mg/株区ではやや徒長気味であった。
- 2) 花芽分化は、栽植距離と培地の深さによる影響は認められなかったが、施肥量間に差が見られ多い区ほど遅れる傾向であり、中でも栽植距離15×15cm・培地の深さ10cm・施肥量100・150 mg/株区がとくに遅れた。これは栽植距離が狭いことにより単位面積当たりの施肥量が多くなったことによるものと推察された。
- 3) 頂花房の開花・収穫始期は、花芽分化と同様に栽植距離、培地の深さによる差は見られないが、施肥量が多くなるほど遅くなる傾向であった。本ぼでの生育は、いずれの処理間とも大差は認められなかった。
- 4) 収量は、栽植距離間での差は認められず、培地の深さは10cm区が15cm区に比べ年内・総収量ともにやや多収であった。施肥量は少ない区ほど年内収量が多かったが、総収量では各区とも大差なかった。

4. 成果の要約

隔離床育苗では、施肥量の影響が大きく、株当たり窒素施用量は成分で100 mg以内とし、栽植距離は15~18cm、培地の深さは10~15cm程度で行うのが良いと考えられた。

表-1 定植時の生育および花芽分化状況

No.	処 理			定植時の苗の大きさ				花芽分化状況	花芽分 化指数	
	栽植距離	培地の深さ	N施肥量	苗重(g)	根重(g)	茎径(mm)	葉柄長(cm)			
1	15×15cm	10cm	50mg/株	36.1	24.5	8.0	10.9	○○○○	3.0	
2			100	41.5	25.4	9.0	16.7	▲▲▲▲	2.0	
3			150	43.6	24.8	9.4	15.6	△▲▲▲	1.8	
4			15cm	50	30.4	19.1	8.4	12.6	▲▲○○	2.5
5				100	31.4	17.6	9.8	14.1	○○○○	3.0
6				150	19.8	10.2	7.4	12.4	▲▲▲○	2.3
7		18×18cm	10cm	50	37.4	24.9	9.0	9.9	▲○○○	2.8
8				100	28.7	16.5	8.8	10.7	▲▲○○	2.5
9				150	30.0	14.5	9.0	12.7	▲○○○	2.8
10			15cm	50	25.9	15.8	7.4	6.7	▲○○○	2.8
11				100	27.7	12.5	9.0	9.9	▲▲○○	2.5
12				150	33.3	16.3	10.4	13.3	▲▲▲○	2.3
13	無 処 理			19.4	10.0	7.2	10.2	××××	0	

注 1. 花芽分化：×=未分化、△=肥厚、▲=分化、○=がく片形成

2. 花芽分化指数は未分化=0、肥厚=1、分化=2、がく片形成=3として算出した。

表-2 生育および収量

No.	葉柄長 (cm)			頂花房 開花始	収穫始		着花数	月別収量 (g/株)				一果 重(g)	
	11.10	12.11	1. 9		頂花房	えき花房		11月	12月	1月	2月		計
1	10.9	12.5	19.7	10.26	11.26	1.14	35	6	102	69	49	226	13.0
2	11.1	12.4	10.5	10.28	11.30	1.16	37	4	97	61	61	223	12.4
3	11.2	12.9	11.5	11. 1	12. 6	1.16	37	0	75	86	64	225	12.5
4	11.4	12.1	11.0	10.26	11.27	1.14	36	6	88	68	42	204	12.6
5	10.3	11.2	10.8	10.28	11.26	1.12	36	9	81	78	39	207	12.2
6	11.0	12.9	10.9	11. 2	12. 4	1.16	35	1	75	79	55	209	12.8
7	11.2	12.1	11.1	10.26	11.26	1.18	36	8	94	60	59	220	12.4
8	11.5	11.7	11.0	10.28	11.27	1.16	42	6	104	68	69	247	12.3
9	10.7	12.5	10.6	10.27	11.31	1.22	36	2	92	70	61	225	12.0
10	10.4	11.8	10.0	10.27	11.28	1.13	38	5	97	75	41	217	12.4
11	10.4	11.0	10.6	10.30	12. 2	1.16	37	3	84	64	42	193	12.4
12	10.1	11.5	11.0	10.31	12. 6	1.22	38	1	84	81	45	211	12.2
13	10.4	11.6	17.1	11.17	1. 8	-	42	0	0	71	61	132	13.5

表-3 要因別生育および収量

要 因		定植時の生育		花芽分 化指数	頂花房 収穫始	収量 (g/株)	
		苗重(g)	葉柄長(cm)			年内収量	総収量
栽 植 距 離	15×15cm	33.8	13.7	2.4	11.30	91	216
	18×18	30.5	10.5	2.6	11.30	97	219
培 地 の 深 さ	10cm	36.2	12.8	2.5	11.30	98	228
	15	28.1	11.5	2.5	11.31	89	207
N 施 肥 量	50mg/株	32.5	10.0	2.8	11.27	102	217
	100	32.3	12.9	2.5	11.29	97	218
	150	31.7	13.5	2.3	12. 4	83	218
無 処 理		19.4	10.2	0	1. 8	0	132